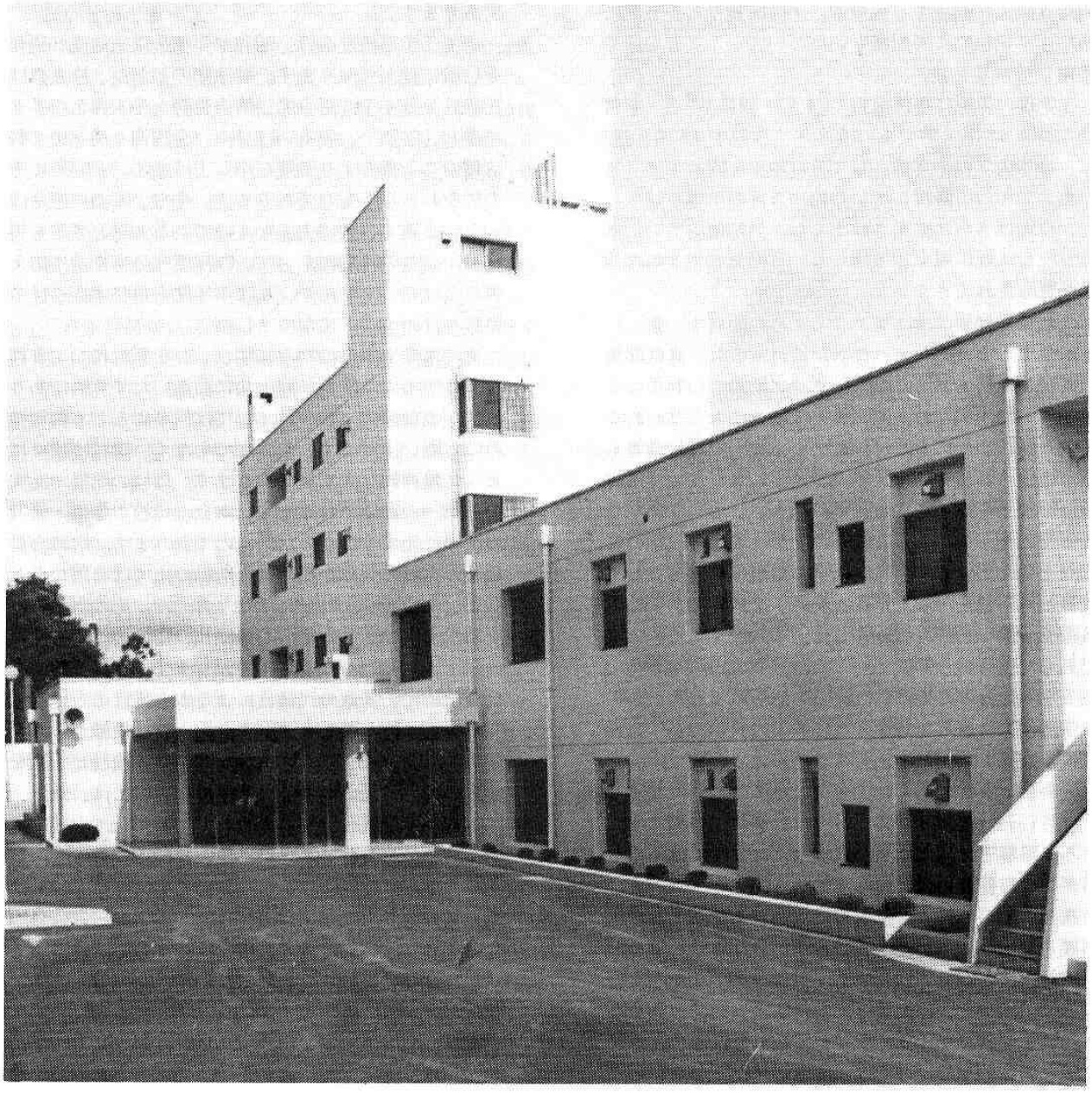
日本大学工学部

校友会報

第 29 号
昭和51年 8 月20日

目　　次

あ い さ つ ---------- 2
昭和51年度総会 ---------- 3～5
東海支部総会 ---------- 6
郷土研究会のこと ---------- 7
CAMPUS－MEMO ---------- 8
日本大学セミナーハウスの利用 ---- 9
学生の所感 ---------- 10
事業としての就職援助 ---------- 11
事務局だより ---------- 12



なつかしい荒池の地に建った日本大学郡山セミナーハウス

あ　い　さ　つ

日本大学工学部長　外木有光

日本大学工学部校友会は創立以来毎年新しい会員数を加え、発展の一途をたどり、最近は幾つかの支部が結成されて、その活動がますます活発になっていることを心からお慶び申し上げます。そして校友会は工学部と密接な連繋を保ち、母校の先輩としての立場から学生の勉学を効果あらしめるため図書の寄贈・クラブ活動の助成など学生の資質向上に裨益する施策や、下宿斡旋など多方面にわたって積極的に御配慮をいただいていることを深く感謝しております。

工学部の現況は専任教員154名・職員77名・非常勤の講師68名・学生5,426名・大学院生48名を擁し、日本大学の一学部としてその地歩を固めて参りました。このほか隣接している約一万坪の土地を購入して、校地はさらに拡充されました。当初使っていた木造の校舎は既に無く、学園らしい雰囲気に包まれた環境が整備されてきました。

また東磐梯寮は増改築によってその面目を一新したほか荒池のセミナー・ハウスが最近落成し、高低測量の実習・卒研・ゼミの会合・クラブ活動での利用など教職員・学生相互の人間関係を深めつつおこなわれる勉学の場が学外にも拡げられています。実験設備等も毎年増強され、とくに大学院の充実にともなって研究のために必要な特殊実験設備が購入されるようになりました。そしてこの研究成果は学部における教学の質を向上させています。昨年は学部の現状を基礎として収容し得る適正な学生定員を決め、文部省に学生の定員増を申請して許可されました。これによって750名であった定員が今年度から1,030名になり在籍学生の数と学生定員との差は著しくちぢめられました。さらに学部将来の運営を想定して、教学の質の向上・施設設備の拡充を目指しそれを推進するため、約10年間据え置かれたままであった学費を大幅に改訂いたしました。さいわい校友・御父兄・学生が学校の意図するところを理解下さった結果、摩擦なくこれを実施することができ有難く思っております。

来年は東京の駿河台にあった専門部工科をこの地に移設して30年になります。これを記念するため種々な行事が企画・立案されています。学部史・記念論文集の刊行、記念会館の設立など委員会において計画を進めています。校友諸兄の参加が得られればこの行事がより一層有意義なものになると思っています。

校友会報第29号が発行されるにあたり、学部の近況などお報せして挨拶を申し上げます。

（日本大学教授・日本大学工学部校友会顧問）

あ　い　さ　つ

日本大学工学部校友会
会長　松山光克

昭和22年に日本大学専門部工科が郡山に移設発足以来、多くの困難に負けず30年の長い間の教育研究活動は各界の認めるところであります。来年度には栄えある工学部創立30周年記念行事が多方面に亘って計画されておると伺っております。願くは本行事が盛大に且つ成功裡に終了するよう祈念するものであります。

さて工学部校友会は、昭和33年発会以来結成20周年を目前に控えております。御承知のとおり、校友数は正会員1万4千3百余名、準会員約5千5百名の多きに達し、学窓で、あるいは日々、全国津々浦々にて御活躍のこと衷心より御慶び申し上げます。と同時にその労をねぎらうものであります。今や、本会の使命はいよいよ重く、且つ大きなものであると思わざるを得ません。この時期にあって、昨年度充分御期待に応え得たとは存じませんが、私は本年度も再び本会々長の要職をけがすことになりました。

更に本年も本会の初心に学び、心を新たにして責務を全うするよう役員一同と共に前進いたす覚悟であります。会員諸氏におかれましては何卒よろしく御鞭撻のほど願い上げます。申すまでもなく、母校は我々にとって精神的な大支柱であります。母校の発展・充実こそ第一の願望であります。本会は母校の学術・研究の振興に先ず役に立ちたいものであります。次に会員相互が大いに親睦を深め社会活動の上では有用な会として、その充実を計らねばなりません。そのために、支部や支会の活動や結成を援助し、横の連絡が密になるようにしたいものと考えております。更に多数の会員のために、多数の代議員による本会運営の方途を考慮すべきものと考えます。そのためには組織上どうするか、運営方法をどうするかなど、早く検討して案をまとめたいと思います。又準会員のためには、勉学、課外活動、就職、学外の生活などにわたって大いに本会の力を分かちたいと思います。特にここ数年来深刻化してきた就職問題は、学生諸氏や御父兄にとっては極めて重大であります。工学部では本年から就職懇談会を催して、良質の求人開拓を始めました。校友会では、校友を動員してこの計画の円滑なる運営と結実を期したいものと思います。

以上、所信の一端を記し、私見を披瀝させていただきました。諸兄におかれましては尚一層の御協力を重ねて御願い致します。末筆ながら会員皆々様の御健勝を祈念申し上げ、あいさつといたします。

（土木工学科第3回卒業・郡山市水道局勤務）

昭和51年度校友会総会報告

例年になく冷たく、はっきりしない天候続きの5月であるが、第19回定期総会を5月23日(日)午后1時より開成山大神宮より0.5kmも離れない、街の中心地に聳えたっ立派な結婚式場、ウエディングプラザ・平安閣で会員多数の御出席を得て開催された。

会は武田副会長の開会の辞に始まり、松山会長の挨拶、次いで議長に関根昭一(電2回卒)、書記に鈴木清司(機17回卒)、寺田聖一(機械22回卒)議事録署名人、細井和由(土5回卒)、村田吉晴(土12回卒)の諸氏が選出され、ただちに議事に入った。尚本総会に東京支部、東海支部より支部長外会員も出席され、先輩・後輩・久しぶりに合った顔と顔、しばらくはそのなつかしさを隠しきれない雰囲気で終始なごやかなうちにも、本会の重要な議案につき、慎重且つ活発な質疑がなされ意義のある総会となり、いずれも報告、原案通り可決承認されました。

議事の進行については以下の通りである。

第1号議案　昭和50年度会務報告　小野沢事務局長

○総合名簿の発行を行なったこと。

○校友会報(第27号、第28号)を発行したこと。

○昭和51年度入学生への宿所斡旋・紹介を行なった。

等の報告があり承認された。

第2号議案　昭和50年度会計報告並びに監査報告。

○決算報告書(表―1)により武藤経理部長より説明があり、次いで監査委員3名を代表し高野操(化3回卒)委員より監査報告がなされ、報告書通り承認された。

第3号議案　昭和51年度事業計画並びに予算案審議

○根本事業部長より詳細説明あり、当面重要な課題として、既に結成し活動を開始している東京支部、東海支部、北海道支部に次ぐ第4番目の支部結成の準備をしたいことである。他会報、名簿の発行、下宿対策等を主なる事業として従来通り計画したいとのこと。これに伴う予算案(表―2)につき武藤経理部長より報告された。協議の結果原案通り承認された。

第4号議案　昭和51年度役員選出について

事務局一任の採決によって新役員を選出することになり、別項の通り新年度役員が決定した。

以上で議案の審議は終わり、その他会員より次の意見が発言されたので付記する。

(1) 教職員に対する慶弔について考えてほしい。

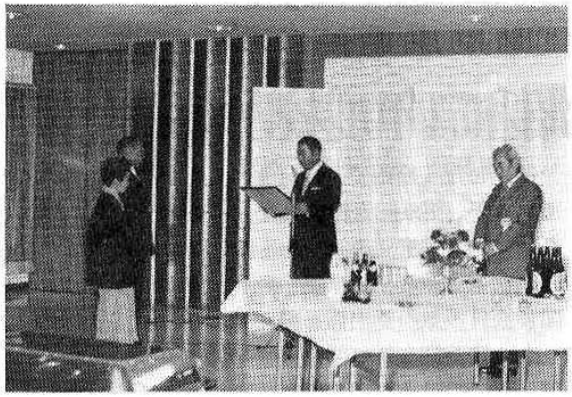
(2) 会長の任期について等会則の改正を希望する。

(3) 本日総会終了后永年勤続者白石事務員を表彰する。

(4) 来年度事務職員の給与を更に考えてほしい。

(5) 工学部研修会館に対して記念品を寄贈する。

終わりに半沢副会長の挨拶で閉会となり、引続き別室に於いて、外木学部長、高橋福島県支部長、父兄会会長、母校教職員の方々等来賓多数をお迎えして懇親会に移り、先ず10年の長きにわたり校友会の為御苦労なされた白石実事務員に対して夫人同席のもとに表彰式を行ない、万来の拍手をおくり感謝の意を表わしました。来賓より挨拶を戴き、その后旧師・先輩・後輩を囲んでパーティーに入り歓談した。



表—1 昭和50年度歳入・歳出決算報告書

昭和51年3月31日 現在

(1) 一 般 会 計

歳 入 の 部　　△印……減

款 項	種 目	予 算 額	件 数	決 算 額	比較・増減
会 費	1.終身会費	5,000	2 326 1,070	6,332,000	6,327,000
	2.入 会 金	5,000	6 1,381	6,923,000	6,918,000
繰越金	3.前年度繰越金	8,174,790	1	8,174,790	0
雑 入	4.預金利子	40,000	3	139,667	99,667
	5.雑 入	1,000	1	1,210	210
繰入金	6.基本財産より繰入	3,115,210	0	0	△3,115,210
合 計		11,341,000	2,790	21,570,667	10,229,667

歳 出 の 部　　△印……減

款項	種 目	予 算 額	件 数	決 算 額	比較・増減
事務費	1.給料・手当	2,000,000	32	1,941,223	58,777
	2.保 険 料	200,000	13	192,052	7,948
	3.交 通 費	221,000	2	221,000	0
	4.旅 費	100,000	11	87,240	12,760
	5.交 際 費	202,930	26	202,930	0
	6.消耗品費	80,000	24	40,250	39,750
	7.備 品 費	147,070	3	40,600	106,470
	8.印刷製本費	250,000	13	226,136	23,864
	9.通信運搬費	150,000	22	106,539	43,461
	10.修繕維持費	10,000	1	380	9,620
	11.光熱及水道料	50,000	2	13,000	37,000
	12.雑 費	50,000	39	47,520	2,480
	計	3,461,000	188	3,118,870	342,130
事業費	13.組織対策費	350,000	4	105,190	244,810
	14.会報発行費	1,417,950	10	1,124,980	292,970
	15.名簿作成費				
	16.下宿対策費	30,000	1	1,900	28,100
	17.図書供与費	500,000	1	500,000	0
	18.卒業式典費	1,182,050	9	1,182,050	0
	19.負担・補助・援助費	900,000	5	850,000	50,000
	20.旅 費	200,000	5	146,440	53,560
	計	4,580,000	35	3,910,560	669,440
会議費	21.総 会 費	300,000	5	193,130	106,870
	22.役員会費	243,200	14	195,938	47,262
	23.連絡協議会費	300,000	4	275,042	24,958
	24.旅 費	256,800	24	256,800	0
	計	1,100,000	47	920,910	179,090
予備費	25.予 備 費	200,000	2	56,180	143,820
	計	200,000	2	56,180	143,820
積立金	26.積 立 金	2,000,000	1	2,000,000	0
	計	2,000,000	1	2,000,000	0
合 計		11,341,000	278	10,006,520	1,334,480

歳 入 合 計 額　21,570,667円
歳 出 合 計 額　10,006,520円
差 引 残 額　11,564,147円

(2) 特別会計（名簿作成費）　　△印……減

予 算 額	歳入の部		歳出の部		予算額との比較
	歳 入 額	件 数	歳 出 額	件数	
9,750,000	6,640,743	3,679	6,640,743	23	歳入・歳出ともに △3,109,257

表—2

昭和51年度 歳入・歳出予算書

歳入の部　　△印……減

款項	種目	予算額	前年度当初予算額	比較・増減
会費	1.終身会費	5,000	5,000	0
	2.入会金	5,000	5,000	0
繰越金	3.前年度繰越金	11,564,147	8,174,790	3,389,357
雑入	4.預金利子	100,000	40,000	60,000
	5.雑入	60,000	1,000	59,000
繰入金	6.基本財産より繰入	2,265,853	3,115,210	△ 849,357
合計		14,000,000	11,341,000	2,659,000

歳出の部　　△印……減

款項	種目	予算額	前年度当初予算額	比較・増減
事務費	1.給料・手当	2,750,000	2,000,000	750,000
	2.保険料	275,000	200,000	75,000
	3.交通費	329,000	221,000	108,000
	4.旅費	100,000	100,000	0
	5.交際費	300,000	200,000	100,000
	6.消耗品費	80,000	80,000	0
	7.備品費	100,000	150,000	△ 50,000
	8.印刷製本費	250,000	250,000	0
	9.通信運搬費	180,000	150,000	30,000
	10.修繕維持費	10,000	10,000	0
	11.光熱及水道料	30,000	50,000	△ 20,000
	12.雑費	60,000	50,000	10,000
	計	4,464,000	3,461,000	1,003,000
事業費	13.組織対策費	220,000	350,000	△ 130,000
	14.会報発行費	2,200,000	2,000,000	200,000
	15.名簿作成費	430,000	0	430,000
	16.下宿対策費	10,000	30,000	△ 20,000
	17.図書供与費	500,000	500,000	0
	18.卒業式典費	1,320,000	600,000	720,000
	19.負担・補助援助費	1,050,000	900,000	150,000
	20.旅費	471,000	200,000	271,000
	計	6,201,000	4,580,000	1,621,000
会議費	21.総会費	250,000	300,000	△ 50,000
	22.役員会費	250,000	300,000	△ 50,000
	23.連絡協議会費	300,000	300,000	0
	24.旅費	300,000	200,000	100,000
	計	1,100,000	1,100,000	0
予備費	25.予備費	235,000	200,000	35,000
	計	235,000	200,000	35,000
積立金	26.積立金	2,000,000	2,000,000	0
	計	2,000,000	2,000,000	0
合計		14,000,000	11,341,000	2,659,000

歳入合計額　14,000,000円
歳出合計額　14,000,000円
差引残額　なし

昭和51年度　役　員

役名	卒業	氏名	勤務関係
顧問		外木有光	日本大学工学部（工学部長）
会長	土木3回	松山光克	郡山市水道局
副会長	土木3回	武田仁幸	（自営）東和工業株式会社
副会長	工化6回	半沢忠	パラマウント硝子工業株式会社
事務局長	機械9回	佐藤光正	日本大学工学部
理事事業部長	機械4回	根本年雄	日本国有鉄道郡山工場
理事経理部長	土木8回	武藤貞泰	郡山市役所
理事本部評議員	土木3回	太田雄八郎	郡山市役所
理事	土木5回	吉田明恒	須賀川第一中学校
同	建築6回	佐藤満夫	日本大学工学部
同	電気9回	高久田稔	白河農工高等学校
同	土木13回	西村孝	日本大学工学部
同	機械13回	小野沢元久	日本大学工学部
同	建築14回	宗像武久	郡山建設事務所
同	工化14回	小川敏彦	日本大学工学部
同	機械17回	鈴木清司	郡山三菱自動車販売株式会社
会計監査	機械2回	菅野宗和	日本大学工学部
同	工化3回	高野操	日本大学工学部
同	工化3回	花井馨	郡山市中央公民館
評議員	土木5回	梅原正章	日東建設㈱郡山営業所
同	土木6回	佐藤吉新	㈲共立水道測量設計
同	土木12回	村田吉晴	日本大学工学部
同	土木19回	長谷川一夫	郡山市水道局
同	建築7回	小栗治男	日本大学工学部
同	建築8回	柳沼一夫	郡山市役所
同	建築10回	橋本寛	日本大学工学部
同	建築15回	馬場彦吉	郡山工業高等学校
同	機械4回	近藤功	二本松工業高等学校
同	機械13回	肱岡猛雄	郡山市役所
同	機械14回	依田満夫	日本大学工学部
同	電気2回	関根昭一	二本松工業高等学校
同	電気3回	釣巻且男	郡山電機製作所
同	電気16回	伊藤義人	郡山市水道局
同	工化2回	篠崎道夫	パラマウント硝子工業株式会社
同	工化13回	五十嵐昭教	日本女子工業高等学校
同	工化16回	野尻大五郎	郡山市水道局
同	工化19回	新田起志雄	郡山市役所
東京支部長	土木3回	古村和夫	（自営）古村建設株式会社（東京）
東海支部長	土木3回	平野卓	建設省中部地方建設局
北海道支部長	建築1回	新井三喜男	東急建設株式会社

東海支部総会開かれる

昭和51年度定例の東海支部総会は、去る6月26日、名古屋市、ホテルニューナゴヤにて開催された。支部発足以来5年目を迎え、すっかり定着したものとなり出席した50余名は学生時代の気分にかえり、上気しながらロビーのそこここで開催の時を待った。

工学部校友会本部からは、太田前会長、根本事業担当理事、武藤経理担当理事、佐藤事務局長の4名が出席した。総会は予定より少し遅れて5時50分荒井氏の司会と開会の辞で開始された。

先ず式次第によって平野支部長が、昭和50年度を振り返って支部活動の状況や、51年度のビジョンを含む御挨拶があった。支部が地域校友の横のつながりとして、役に立つ活動をしたい、またしなければならないとの具体的な提言には皆讃同の意を表した。

次に校友会本部理事の前会長太田雄八郎氏が会長代理として御挨拶を申し上げ、その中で支部の充実が校友数の増加に伴なって、極めて重要な意味のあることを述べられた。これは今後の校友会の発展する一つの筋立てとして検討されるべき事項であると思います。

次に議長選出について議事をすすめたが、司会者一任の声に荒井氏が平野氏を推薦し、拍手をもって任命され、早速議案審議に入った。

第一号議案　昭和50年度会務報告について、平野氏は、結成当時不運にもオイルショックで、社会状況が不安定であった為に、目的通りに事が運ばなかったが今後発足当時にたちかえり、活を入れて活動したい、との意向を明らかにした。更に本部から根本年雄理事が、校友会の役員構成、会議の種類と内容、諸事業など、校友会活動の全般のことや総会の様子について補足説明があり、拍手をもって了承された。

第二号議案　昭和50年度会計報告については、支部会費を徴収していないので特に報告する事項はなかったが、先輩の力や個人の力によって、支部運営がなされているのは、甚だ変則的であり、今後の重要な宿題と感じた次第である。

第三号議案　昭和51年度事業計画については、平野氏より以下の提案があった。

1. 東海支部に静岡県在住校友を加える。
2. 東海支部報の発行
3. 支部名簿の充実
4. 学部就職活動を援助する。
5. 親睦会を催する。
6. 本部事業計画に付随する諸事業

これは、全員の拍手と激励の声の中に、議決された。この様子を見て、東海支部の並々ならぬ意気を強く感じました。

その他の議案で、平野氏が、かねて静岡ブロックより招聘していた藤原・渡辺の両氏を紹介し、静岡ブロックの近況を藤原氏に説明していただいた。それによると、日本大学工科会（工学部だけでない工科校友の会）があって、その中に青年部会を作り、活発な活動をしているとのことであった。今後は工学部単位、工科系単位、全日大単位と機構を明確にして、更にこれ等を結ぶ横の連絡を密にして活動したい、三島の学部祭を利用するなどしてすでに実効を上げているので、充分やって行けるとのことであった。発言の中には、このような東海支部の活動を見るとうらやましいとの言もあった。

学窓を巣立って、実社会で見る校友の顔は、申すまでもなく、なつかしく、又頼りに感じられるものであります。より強く、より多くの校友のためになる東海支部発展のために、静岡ブロックの参加が早からんことを希望したいと思います。

また、本部の佐藤事務局長が、学校の近況をのべ、学園の充実、学年暦、学生生活、就職状況、父兄懇談会、入学試験などについて説明があった。特に就職については、学部就職課から託された「求人票」を配り校友の協力援助を御願いした。

これは、早速支部の活動方針の一項として、熱い口調で採択されたのであります。

このように校友諸氏は、時間の経過するのも忘れ、熱心に協議を重ね、論の止まるところがなかった。しかし予定もあり、総会はこの時点で終了し、直ちに次室での懇親会に移ったが、このムードはそのまま持ち込まれ、正に盛況そのもので、至るところで肩をたたき、グラスを打ち当て、学生時代や仕事の話で、夜の8時半になっても一向に帰る者が出ない。

エールの交換、校歌、万才と大声を発し、日頃の断絶を一気に取りかえそうとしている様子でありました。しかし、この気持ちは又全国各地区に散っている校友一人一人の胸にいつもあることではないでしょうか。本部も出来るだけ沢山の支部を早く結成出来るよう努力すべきであると申し上げ、東海支部大会の報告を終ります。

郷土研究会のこと

横井　博

校友会事務局から、小生の専門分野のことを何か書くようにとのお話をいただきましたが、小生のやっている研究の内容などは校友の皆さんにとってほとんど興味のあることではあるまいと思われますので、ちょっと方向を変えたことを書かしていただきます。

小生は、いま学生のクラブの一つである郷土研究同好会の顧問をしています。これは出来てからまだ数年の小さいクラブですが、学生からこの会の結成の相談を受けたとき、小生は喜んで協力を申し出ました。

わが学部には80ほどの学生のクラブサークルがあり全学生の半分近くの2,300名の学生が加入していますが、大事なあることに関心を示すサークルが一つ欠けていると、小生はかねがね思っておりました。古い神社仏閣の縁起をたずねたり、路傍の石碑の物語ることに耳をかたむけたり、あるいは名所のいわれをさぐりながら景観の美しさを楽しんだりするようなことを活動方針とする。そうしたクラブが一つもないのは不思議だと思っていました。なぜなら、小生は授業で学生に接しながら、ものごとの故事来歴を知ることを好んだり、何かの遺跡だの文化財だのを探ることに興味をもつ学生が、かなり多数いるはずだと感じていたからです。

そんなわけで、郷土研究同好会ができて、ことしで4年目になり、小生もいっしょにやっているわけでありますが、ここにその一端を紹介いたしたいと思います。毎年恒例の行事としては、白河関旅行があります。白坂まで汽車で行き、白坂明神一旗宿（白河古関跡）一関山一白河市と20数キロを徒歩で見てまわります。奥の細道46歳の芭蕉を追って歩くのも、50歳をすぎた小生にはそう容易ではありませんが、頑張って学生についてゆきます。

次に年数回発行されている『工学部広報』なるパンフレットに「みちのく春秋」という欄があり、その執筆は小生の役割ですが、その下調べを郷土研究会の諸君が買って出てくれています。学生は資料を調べ、現地を実際に訪ね、写真を撮り、原稿を書いて小生の所へ持って来ます。小生はそれに少し手を入れて成稿を作ります。こんな風にして書かれた「みちのく春秋」のこれまでの題目を次に掲げてみましょう。

○宇津峰（雲水峰）（工学部のグランドから東南に見える山。南北朝の遺跡で国指定の史跡。）
○山の井公園（郡山市片平町。安積山の歌〖万葉集・采女詠〗にまつわる伝説地。）
○和紙の里（安達郡安達町上川崎。手すき和紙のわずかに残された生産地の一つ。）
○麓山公園（郡山市麓山。市街の中心地にある江戸時代からの静かな公園。）
○智恵子の里（二本松市油井町。詩人高村光太郎夫人の智恵子の生家や二本松霞城の智恵子抄詩碑など。）
○御霊櫃峠（郡山市多田野の奥から奥羽山脈を越えて猪苗代湖方面に抜ける昔からの峠。）
○三春デコ屋敷（郡山市西田町高屋敷。全国的に著名な三春張子人形と三春駒の製作地。）
○浄土松公園（郡山市逢瀬町多田野浄土松。凝灰岩の風化浸蝕によって出来たキノコ岩などのある奇勝地）

一ざっと以上のようなものですが、ここにあげられた項目をごらんになれば、郷土研究会がどんなものに関心をいだいているかが、ほぼお判りいただけると思います。これらのなかには校友の皆さんも訪れたり、話にきいたりされたものが含まれているかも知れませんね。

このほか、福島県内を目安として「郷土」なるものを探っておりますが、すでに行ってきたいくつかを掲げますと勿来の関（いわき市）、白水阿弥陀堂（いわき市）、背戸峨廊（いわき市）、霊山（伊達郡）、伊達の大木戸（伊達郡国見町）、飯坂温泉・医王寺・丸山（福島市）、信夫文知摺（福島市）、黒塚（安達郡）岩角山（安達郡）、本郷焼かま元（会津本郷町）、恵日寺（耶麻郡）、大内部落（南会津郡下郷町）などが数えられます。

各地をこのように探訪するだけでなく、各人めいめいで、あるいはまた小グループで研究(?)らしきことを追々手がけております。今年は、奥の細道全コース(東京からみちのく、越後、そして岐阜の大垣まで）を踏破するという、壮大な夢をこの夏休みに実現するというグループもありますし、「神様の研究」、「神社とは何か」、「三十三観音の信仰と遺跡」、「民家の研究」、「木曾谷の調査」、「鬼穴の探険」、「拓本の作成」などといったテーマが並んでいます。

「何をやったらいいのか、学生はよく迷うようですが、私はその都度、1まず歩け、2文献を揃えよと言ってきかせます。まず歩け！　歩くことのなかから何かが生まれてくるであろう一　こうした禅問答のような仲間の姿勢を学生は「これを称して狂道研究会という」と、うまいことを言っています。

ではこの辺で、さようなら。

（一般教養科文学博士　日本大学工学部教授）

〖追　記〗

横井博教授は、昭和51年3月26日に日本大学から「印象主義の文芸」の研究で文学博士の学位が授与されました。お知らせ致します。　（校友会事務局）

CANPUS
mini－MEMO

◆工学部長に外木教授が再選

外木工学部長の任期満了にともない、学部長選挙規定に従がい、去る昭和51年2月25日に予備選挙、26日に本選挙が行なわれ、外木有光教授が再選され5月1日から2期目に入った。

外木先生は、横地伊三郎教授、広川友雄教授、野引勇教授に次いで、第4代目の学部長である。

◆菊池秀之先生が名誉教授に

電気工学科の菊池秀之先生は、昭和30年5月より19年9ヶ月にわたって工学部に勤務され、昭和50年2月14日に定年になられましたが、50年4月4日付で名誉教授の称号が授与された。菊池先生は本学部で初の名誉教授である。

◆学生定員を変更

かねて工学部では学生定員の変更を文部省に申請していたが、それが受理された。昭和51年度生からの新定員は次の通りである。

土木工学科	(220名)	建築学科	(220名)
機械工学科	(220名)	電気工学科	(220名)
工業化学科	(150名)	計	(1030名)

◆教職課程に理科・数学が加わる

昭和51年度から、教職課程は従来の工業・技術に加えて理科・数学も設置された。聴講生制度もあり。

◆在校生の出身地分布

在校生の出身高校の所在地の県別のベストテンがまとまりました。(昭和51年5月1日現在)

①福島864名、②静岡388名、③北海道348名、④茨城279名、⑤栃木269名、⑤新潟269名、⑦東京240名、⑧長野235名、⑨群馬203名、⑩山形175名、以下100名以上の県が、愛知・岩手・秋田・神奈川・埼玉・福岡・宮城と続いている。

◆30周年記念行事準備始まる

昭和22年に専門部工科が郡山に移設されてから、来年で30周年になるため、日本大学工学部開設30周年記念行事企画運営委員会(委員長外木学部長)が発足し、30年史・記念論文集の刊行、記念会館の建設などの準備が始まった。

◆お願い

30年史の編纂のため、校友の手元にある珍らしい写真・印刷物などありましたらご連絡下さい。お借りしたいと思います。　係(教務課)神村

◆庄司俊夫先生御逝去

元一般教育科(数学)助教授庄司俊夫先生は昭和50年10月14日、東京にて逝去されました。享年78才でした。

◆内田泰郎先生御逝去

元土木工学科教授内田泰郎先生は昭和51年1月19日、仙台にて逝去されました。享年89才でした。

◆校友の母校での教員

母校で教壇に立っている専門部工科(郡山)・第二工学部・工学部の卒業生のうち、教授・助教授は次の通りです。(51. 4. 1現在)

教授	電気工学科	国分欽智	(専1・1回卒)工博
助教授	土木工学科	浪越　勇	(5回卒)
		安田禎輔	(6回卒)
	建築学科	国分守行	(専1回卒)
	機械工学科	菅野宗和	(2回卒)
	電気工学科	鳥羽重幸	(1回卒)
		松塚　勇	(1回卒)
	工業化学科	菊池光子	(2回卒)工博
		後藤　尚	(2回卒)
	一般教育科	続　馨	(電12回卒)工博

◆このような具合に、この欄ではキャンパスのニュースやメモやユニークな統計などを扱いたいと思います。注文があったら事務局まで。(た)

建築学科教室報『創建』合本頒布のお知らせ

建築学科で刊行しております『創建・そうこん』がお蔭で30号まで出ました。これは第二工学部が工学部に名称変更した1966年4月を契機に創刊号を発刊し、爾来、年に3，4回刊行し続けました。今年6月に30号記念号を刊行したのを機会に、1～30号合本を作成して、建築学科の足跡を永く保存することとしました。合本は、御希望の諸先輩にもお頒けしますので、お申出で下さい。

申込方法　1冊頒価2,000円(364頁、送料200円)を編集室宛お送り下さい。

申込、問合せ先　建築学科谷川研究室内
『創建』編集室TEL0249－44－1300(内線360)

日本大学郡山セミナーハウスの利用について

日本大学工学部

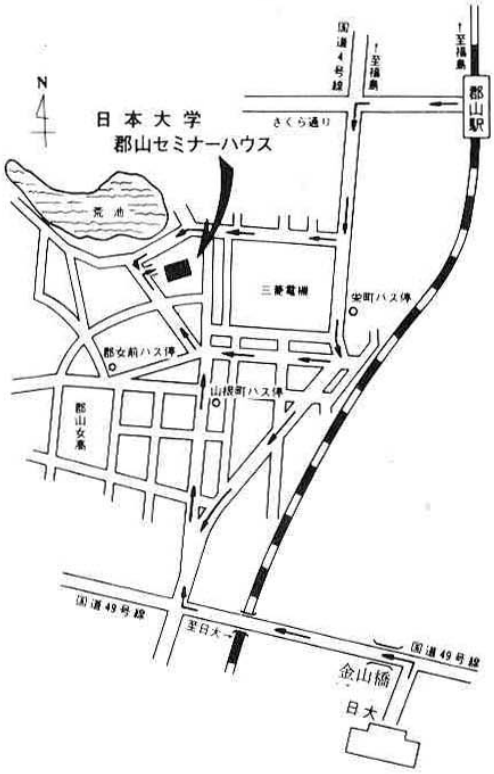
日本大学郡山セミナーハウスを校友が利用する場合を想定して、管理使用規定・使用心得の抜萃を次に掲げて案内致します。

1. 管理は日本大学工学部が行なう。
2. 利用できるのは、本大学の学生、生徒および教職員（その家族を含む）のほか委員会が認めた者とする。
3. 使用を希望する校友は、使用日前30日から5日までに工学部庶務課に申込む。現地では受付けない。
4. 使用日数は同一人につき、2泊3日以内とする。
5. 使用料金は次の通り。

宿泊料（1泊2食付）			2,100円
その他の使用料			
セミナー室	1室	1～6時間	1,000円
		6時間以上	2,000円
宿泊室	1室	1～6時間	300円
		6時間以上	600円

6. 宿泊の入館は14時から21時までの間、退館は10時まで。宿泊以外の利用は、9時から21時までの間
7. 食事は時間を守り、食堂で食べ、すべてセルフサービスです。
8. 飲酒は原則として禁止、マージャンは禁止です。
9. 施設・備品などを破損または紛失した時は、直ちに管理者に届け出て指示を受ける。場合によってはその損害を賠償させることがある。
10. 使用許可書は第三者に転貸または譲渡してはならない。
11. 所在地は郡山市愛宕町2－22
12. 詳細は工学部庶務課に問い合わすこと。
(0249)-(44)-1300（大代表）

セミナーハウスに至る略図



昭和52年度 学生募集 日本大学工学部

◆試験入学

試験日　建築学科・機械工学科
昭和52年2月24日(木)
土木工学科・電気工学科・工業化学科
昭和52年2月25日(金)

試験場　両日ともに郡山（日大工学部校舎）、東京（日大経済学部校舎）の2ヶ所

試験科目　外国語（英語B）、数学（Ⅰ・ⅡB・Ⅲ）、理科（物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱのうちどちらかを選択）

募集人員　約750名

◆推薦入学（一般高校）

資格　高校工業科を来年3月卒業見込で成績順位がA段階の者、応募できる学科は本人の履修した専門学科に関連のある学科に限る。

推薦人数　一校あたり、土木・建築・機械・電気の4科については合わせて3名以内。工業化学科は2名以内。

受付期間　昭和51年11月24日～12月6日

面　接　昭和51年12月15日(水)

募集人員　約140名

◆推薦入学（付属高校）　省略

学生の所感

大学生活に思う

機械工学科4年　小　島　　実

4年間の大学生活で、私が得たものは果たして何であったろうか。学問を通じてはある程度の専門的教養が身につき、クラブ活動や校友関係などによって人間的成長が遂げたものの、卒業を間近に最後の年になって、しばしば現在の自分というものに疑問を抱くことがある。それは大学生活があまりにも惰性的な生活であったからである。

『人間は、順応性に富んだ動物である。』という言葉があるが、まさにその見本が私であろう。ロボット化された現代社会において、ほとんどの人間が何かに縛られ本当の自分の姿を発揮できずに、いや発揮することを知らずに生きている。私の場合もそうである。夢をもち、大きな期待に胸をはずませて入学したもののいつの間にか大学生活が惰性的になり、自分を失なってしまった。入学当時は大きな目標に向って走っていたはずなのに、いつからか生活に妥協し、それが卒業という単純な狭義的なものになってしまった。例えば試験となれば卒業の為、単位取得の為と思って、仕方なし勉強するようになっていた。つまり、自分自身が自分を殺してしまっているのである。これは、私ばかりでなく、殆んどの学生について言えることだと思う。何がこうさせたのだろうと考えた場合、それは現在に甘え過ぎているからである。だが現実は厳しい。もうすぐ社会に巣立ち、激しい生存競争に乗り出さなければならない。今こそ惰性的生活から脱皮しなければならない。では、学校で学んだことが、そのままそこで役立つかというと、それも疑問である。だが長い間の学習の努力は決して無駄にはならない。基礎ができていて応用が効くのであって、基礎のない者に後日大成は望めない。そして実際に仕事についた時、それが単なる生活の手段であったならば、その人間は楽しみも何もない人生を過ごすことになるであろう。それにはどうしたらよいのだろうか。

私は、学生時代ある女性を好きになった。俗に言う『惚れた』のである。だから毎日が意欲に燃えた楽しい生活であった。どんな苦しみをも忘れて・・・。結局このことは勉強についても言えることで、それに対する意識と態度が真の価値を決定するのである。意欲をもった真剣な態度こそ、自己を磨き高める一つの要因である。大学生の在り方が批判されている現代。それだけに大学生の社会に対する責務の自覚が必要なように思える。今こそもう一度現実の自分を冷静に見つめ直し、生き甲斐のある生活を送らなければならない。大学生活が、より充実したものとするためにも。

最終学年前期

機械工学科4年　岩間将人

郡山の4月はまだ寒く、遙か磐梯、安達太良も白く輝くし、風はとても冷たいので、桜も堅い蕾の新学期ですが、新入生はとても元気がいいです。ですが在学生は成績票を受け取り目を白黒させています。「あれ、○○落とした。」心細そうに単位数を数えては安堵の溜息をもらす一番恐ろしい時です。卒業見込が出るかどうかは、就職があるだけに4年生は真剣です。下級生の諸君はあきらめずに単位は多めに取りましょう。取り直しは出来ない4年生の実感！

卒研のテーマ決めのころ、下宿街のこの季節はあちらこちらで夜中の大合唱、音程はずれも愛敬の新入生歓迎コンパの嵐が吹きまくる。あちこちの空席は2時限目に出席。授業そっちのけで昨夜の話があちこちではじまると、日本酒、ビール、洋酒、底なし。意見が合えば、今晩も嵐が吹きあれる。やっと5月になると桜がキャンパスいっぱいに咲きほこり、春まっさかりになる。この花吹雪もみごとで、あちらこちらで記念撮影、昼寝する人でベンチは満員でした。

いよいよ新緑の季節、梅雨の合い間の青空は、とてもすがすがしい。4年生は卒業研究の始まり、宣伝につられて決めたテーマは良かったが、宣伝と実際は大違い。日曜以外は毎7時。暗くなるとやっと帰れます。卒研生は大真面目なのですから、「これで4単位は少なすぎるんではないでしょうか。機械科は8単位にしてもいいんでは。」と頼んでも先生は知らん顔。

5月末に、うちの研究室の全員が米沢のセミナーハウスで交歓会をしました。このセミナーハウスはとてもすばらしく、なごやかに夜ふけまで楽しい交歓会でした。この時の先生の時速50km厳守は、真っ赤な偽りでした。無事に研究室に戻れて本当にほっとしたのは、ぼくだけでしょうか。

3カ月の短いこと、もう7月になってしまいました。前期試験があるのに、みんなの共通な話題は就職の事今年の就職戦線はだいぶ後退しています。優秀な人材が眠っていますよ。求人募集が集まりますように。

緑は一日ごとに濃くなり、梅雨明けも近いこのごろでは、下級生の会話は夏休みの事で一杯。楽しそう。

この研究室は再び忙しくなってきました。この夏休みが勝負なのですから、白衣一枚でこの夏をすごします。学会の発表も近いので、とても忙しいのですが良い結果のために精いっぱいがんばります。

来春、無事卒業したら社会人、悔いのない半年を過ごしたい。

事業としての就職援助

事業部長　根本年雄

校友会が営む事業を大別すると、母校工学部への学術研究、教育活動に対する援助や、卒業生の正会員には、5年隔年の総合名簿作成配布、卒業当該年度者名簿の作成配布、年二回の会報発行があり、また、在学生の準会員に対しては、図書の寄贈や課外活動援助、並びに宿所の斡旋紹介などがあります。そして、その目的とするところは、校友の緒をしっかりと結びつけて、母校の成果を社会に示すことにあると申し上げて良いと存じます。

このような理で、本会の活動の中に、卒業生の就職に対する協力、援助について、以前から論じられていたのでありますが、日本大学の就職対策は、強力確実であることと、本学校友が年令的にも、社会的にもあと一歩その機に至っていないとの判断から、本会の事業とするのを差し控えておりました。

ところが、6月26日の東海支部総会で、就職指導の協力の件で審議された結果、直ちに本年度から支部事業計画に加えるよう決議されたのであります。

日本経済が低迷を続ける中で、卒業生の就職に対する不安をいくらかでも解消するために、校友会の力が役に立つことは、この上ないよろこびでありまして、本会としては、今まで検討されてきた事項を整理して就職指導に協力できる方途を講じなければならないと思っています。

更に、工学部では、就職指導行事の一環として、企業側の動向を掌握するため、毎年積極的に企業訪問などを行なっていたが、加えて、昭和51年度からは、学部側就職指導委員会と企業側との就職懇談会を企画していたのであるが、校友会の上記支部決議を良く理解されて、去る8月6日、名古屋市において、東海地区（静岡、愛知、岐阜、三重）の、特に校友の勤務する36社を対象に出席を要請して、第一回目の就職懇談会を開催したのであります。

この、学部の、速やかで適確な対処に対し、敬意を表すると共に、増々我が校友会の持つ責任の重大さを痛感する次第であります。

就職懇談会には、学部から就職指導委員長、本間磐教授、土木工学科就職指導委員、新田亮教授、工業化学科就職指導委員、宇野原信行教授、機械工学科就職指導係、佐藤光正、就職指導室係官、横山勇一の各氏が出席し、校友を含めた企業側20社の代表者と懇談されたとのことであります。

懇談会の運営に当っては、東海支部、支部長平野卓氏をはじめ、役員諸氏が一丸となって協力したとの報告をいただきました。

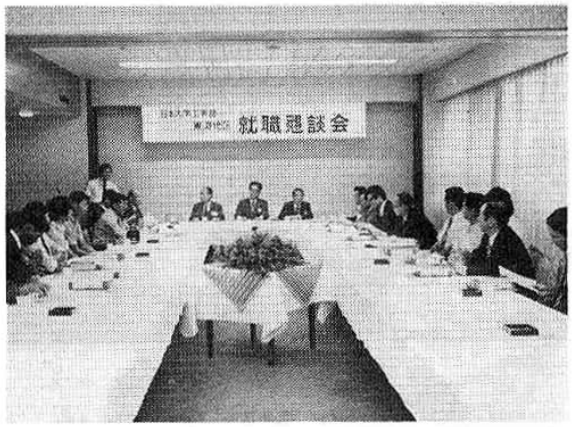
多忙の折にもかかわらず、対処なされたことに対し皆様の労を心からねぎらい申し上げます。

これらの成果は、必ずや後輩諸君に生かされるものと確信いたしております。

本会としては、今後、更に実力ある支部を育成し、目的達成のために、止むことなき前進をいたしたいと思っています。

会員諸氏におかれましては、何卒よろしく御鞭撻のほど願い上げます。

母校、並びに諸氏の御発展を祈念申し上げて結びといたします。



就職懇談会々場風景
於　ホテルニューナゴヤ

工学部への求人申込のために

日本大学には、本部事務機構に就職部があり、日本大学全学部に対する就職状況の把握や、就職指導をしている。これを受けて、工学部には、各科から一名ずつの就職指導委員によって構成される就職指導委員会があり、就職指導の細部や、工学部独自の活動などについて企画、運営をしている。

求人の依頼は、本部就職部を通すのが原則であるが直接工学部の就職指導室に申込んでも良い。
この場合出来ることなら、求人の担当者は、就職指導を行なっている係の者と会って、企業の内容を説明しておくと効果があるようである。

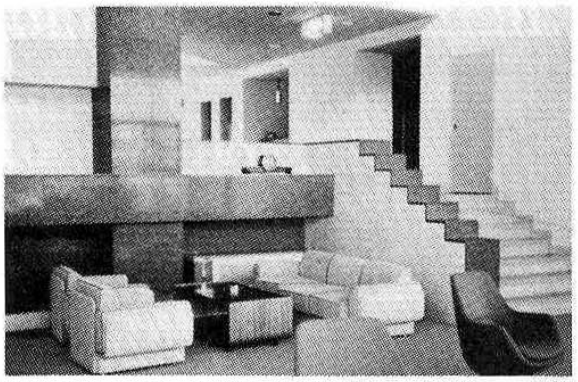
この求人申込書は、日本私立大学連盟標準様式に従って作成されたもので、校友各位の勤務される企業で求人なされる意向があります折には、就職指導室に申し込んで下さい。尚、科が異なると求人事情も異なるため、各科の指導委員（土木科、新田亮先生。建築科倉田博先生。機械科、並木満之助先生。電気科、本間磐先生。化学科、宇野原信行先生）の先生と相談されるのも良いと存じます。連絡先は、郡山市田村町徳定字中河原1番地、日本大学工学部就職指導室御中、電話、０２４９―４４―１３００

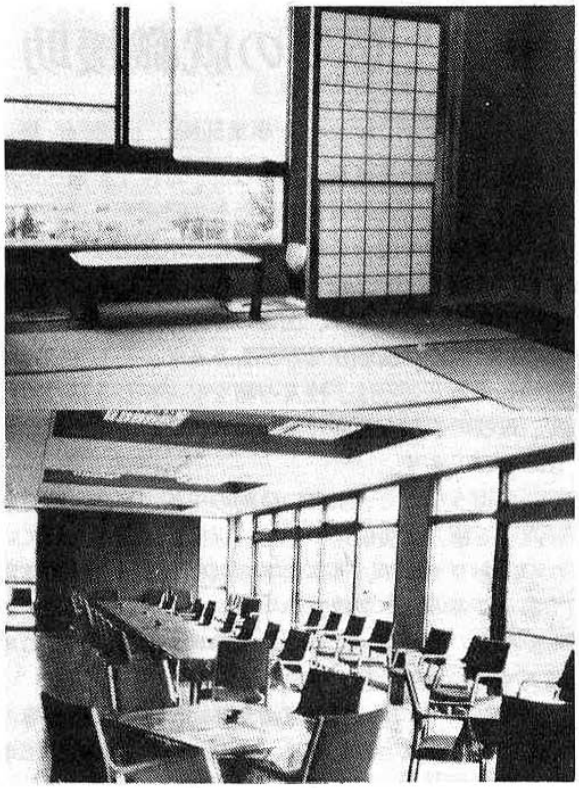
セミナーハウス紹介

表紙や、キャンパスミニ・メモ、で御知らせしたセミナーハウスの内部です。玄関を入ってすぐに階段を降りると広いロビーがあります。

和室の窓からは、市街地の向うに徳定の森と、母校の白い建物が見えます。

庭を見下ろして広い食堂があります。





校友会報の原稿募集

本会の重点事業の一つである校友会報に、広く校友各位の資料を掲載して、その内容を充実し、魅力あるものにしたいと念願しております。内容は問いません。原稿をどしどしお寄せ下さい。期待しております。

会員名簿頒布のお知らせ

"昭和50年版、日本大学工学部校友会会員名簿"の残部があります。これは総合名簿といって、昭和27年度第1回から昭和40年度第23回卒業まで、13,145名の卒業生を掲載したものであります。御希望の方にはお頒ちしますから、下記により申し込んで下さい。

1. 実　費　1,000円
2. 送　料　300円
3. 申込方法
   (1) 現金書留ならば1,000円と切手にて300円。
   (2) 郵便振替ならば1,300円振込。
   (3) 宛先・振替番号等は本号の最後の欄を見て下さい。

終身会費並びに名簿代納入お願い

◎終身会費について

昭和49年度第23回卒業までは～3,000円

昭和50年度第24回卒業以降は～5,000円

◎昭和50年版校友会会員名簿代（総合名簿）

実費1,000円。

以上について未納の方は、大至急納入して下さるよう重ねてお願いいたします。

異動報告について

1. 住所が変ったとき
2. 勤務先が変ったとき
} 正確にそしてくわしくお知らせ下さい。
3. 改姓したとき～旧姓もお忘れなく。

以上についてはなるべく早く、本会事務局宛にハガキ（又は電話）にて御連絡下さるよう御協力下さい。

校友会報第29号

発行所　日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号　979－66
電話番号　郡山(0249)44－1327番
振替口座番号　（郡山）1990番
発行日　昭和51年8月20日
発行者代表　会長　松山光克
編集者代表　事務局長　佐藤光正